

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：ちゃいれっく並木二丁目保育室	種別：地域型保育事業
代表者氏名：宮戸 恵美	定員（利用人数）：10名（利用者：10名）
所在地：〒236-0005 横浜市金沢区並木2丁目3街区1号棟104号室	
TEL：045-353-7811	ホームページ： https://chilec.procare.co.jp/namiki2chome/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2012年10月20日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社プロケア	
職員数	常勤職員：3名 非常勤職員：4名
専門職員	（専門職の名称） 名 保育士：6名
施設・設備の概要	（居室数） （設備等）
	保育室：2 園庭：なし
	トイレ：1
	調理室：1
	事務室：1

③ 理念・基本方針

【理念】

『大地にがっしりと根を張る〈大樹〉になってほしい』
この子らはどんな葉を茂らせ、どんな花を咲かせ、どんな実をつけて人を笑顔にするのだろう。
子どもたちが〈大樹〉と育つための、その基となる〈根っこ〉を育てるお手伝いをしたい、そうプロケアは願っています。

【保育方針】

〈こころ〉 〈からだ〉 〈生活〉 の三位一体の保育を目指します。
【こころ】 温かい「第二の家庭」を提供し、心の豊かさを育む
【からだ】 生活のリズムを整え、食育に取り組み、健やかな身体を育む
【生活】 様々な体験を通じて、主体性と協調性を育む

園の保育目標

1. げんきな子
2. おもいやりのある子
3. さいごまでがんばる子

④施設・事業所の特徴的な取組

1、2歳児を異年齢クラスと一緒に保育することにより、兄弟姉妹のような関係を育みます。家庭に近いゆったりとした環境の中、友達や保育者とじっくり向かい合い、関わり合い、受けとめられる経験をすることで自己肯定感を持てるように保育をしています。

ほぼ毎日、さくらさくらんぼ保育園 斎藤公子先生考案のリズム運動を行っています。手指や足のつま先をつかうことによって脳にも刺激を与え、体幹づくりの基礎となっています。また、順番を少し待ったり、リズムや音楽を感じたりということも含まれているため、非認知能力を育てる機会にもなっています。

暑い時期以外は、毎日散歩に出かけ、でこぼこ道や坂道なども歩くことによって、足腰を鍛えるだけでなく、自らの力で歩き、自ら興味を持ったものに向かって行ける基礎をつくっています。太陽にあたることにより、セロトニンの分泌を促し、よく眠れ、お腹がすいてご飯を食べたいと思える体作りができています。また、季節ごとの自然に触れることを大切にし、花や虫、木の実などに触れる実体験を多く取り入れています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年5月1日（契約日）～ 令和5年3月6日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	- 回（ - 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) 保育の連続性を意識して、主体性を大切に保育を実践しています

職員は、子どもたちの「やりたい」という気持ちを大切に、子どもたちの主体性を尊重しています。保育室のおもちゃや絵本は子どもたちが好きなものを自分で選べるようにしています。運動会では、子どもたちが手作りおもちゃのテーブルを逆さにして、車のようにして遊んでいたことから、その遊びをそのまま競技に発展させるなど、子どもたちの遊びの展開や保育の連続性を意識して、一人ひとりの主体性を育てています。

2) 保護者と連携を図り、子どもの育ちを見守っています

園では、小規模保育所の特性を生かし、保護者とのコミュニケーションを深め、家庭的な雰囲気の中で子どもの育ちを見守る保育を実践しています。施設長や職員は送迎時など保護者に積極的に声をかけ、子どものその日の様子など、時間をかけて共有することで、保護者との信頼関係を築いています。給食なども家庭的な雰囲気を意識して温かい食事を提供しています。子どもたちは、職員に優しく見守られながら、安心感と安定感の中で過ごしています。

3) 園内研修を充実させて、保育の質の向上につなげています

園では、保育所保育指針が示している「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」に基づき、「2歳児までに育って欲しい姿」について園内研修で話し合っています。職員は、保育をする上で大切にすべきことやどのような援助や声かけを行うか、などについて意見交換を行う中で互いの保育観を伝え合い、理解を深めながら意識統一を図っています。園内研修の内容を工夫して園全体の保育の質の向上につなげています。

4) 中・長期計画に数値目標や具体的な成果を設定することが期待されます

園としての3ヶ年の中・長期計画は、法人の中・長期の計画の内容を反映させながら策定し、「子どもの生きる力を育てる」と、保育の方向性とビジョンを明示して、保育内容、職員育成、子育て支援などの取組内容を設定しています。今後はさらに、実施状況の評価をより的確に行うために、数値目標や具体的な成果を設定されることが期待されます。

5) ボランティア等の受け入れ体制の整備が期待されます

園では、紙芝居などのボランティアや小中学生の職場体験、高校生のインターンシップなどを受け入れた実績がありますが、現在はコロナ禍で難しい状況となっています。今後に向けて、ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にしてマニュアルを作成し、受け入れ体制を整備することが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審するにあたり、保護者の皆様をはじめ、多くの皆様に自己評価を行う上でご協力頂き大変感謝しております。家庭的保育室として開園してから10年経ちましたが、園児数の少ない小規模園であるため、きょうだいのように、第二の家庭になれるようにということを中心に心掛けて保育をしてきました。今回の評価で、そのような面を評価していただけたことは、とても嬉しく、今後の励みとなりました。

また、今回の調査日に向けて準備を進める中で、職員間で改めて自園の取り組みについて振り返ったことは、保育面でも運営面でも気づきや再確認へとつながるとも貴重な機会となりました。

今後も、園児や保護者の皆様に寄り添い、地域の中で第二の家庭として機能できるよう、職員一同努めてまいりたいと思っております。

ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり